

防災訓練の結果の概要（個別訓練②）

1. 訓練の目的

本個別訓練は、全交流電源喪失時の各対応手順書に従った操作訓練を繰り返し行うことにより、全交流電源喪失時の対応者の習熟を目的としている。

2. 実施日および対象施設

(1) 実施日

2017年2月18日 ～ 2018年2月20日

詳細は、「添付資料」のとおり。

(2) 対象施設

再処理施設

3. 実施体制、評価体制および参加人数

(1) 実施体制

訓練ごとに実施責任者を定め、実施担当者が訓練を行う。

詳細は、「添付資料」のとおり。

(2) 評価体制

定められた手順書どおりに訓練が実施されたかを実施責任者が評価する。

(3) 参加人数

「添付資料」のとおり。

4. 防災訓練のために想定した原子力災害の概要

再処理施設の全交流電源の喪失、並びにそれに伴う高レベル濃縮廃液貯槽等の冷却機能および水素掃気機能の喪失等を想定する。

5. 防災訓練の項目

個別訓練

6. 防災訓練の内容

(1) その他必要と認める訓練

- ①電源車対応訓練
- ②水素掃気用コンプレッサ対応訓練
- ③通信設備用発電機対応訓練
- ④冷却コイルへの直接注水訓練

7. 訓練結果の概要（添付資料参照）

(1) その他必要と認める訓練

①電源車対応訓練

- ・地震等により全交流電源が喪失した場合を想定し、電源車の出動および起動、電源車から電源を供給するためのケーブルの敷設および接続の実動訓練を実施。

②水素掃気用コンプレッサ対応訓練

- ・地震等により全交流電源が喪失した場合を想定し、エンジン付き空気コンプレッサの起動、エンジン付き空気コンプレッサから水素掃気用の空気を供給するためのホースを敷設する実動訓練を実施。

③通信設備用発電機対応訓練

- ・地震等により全交流電源が喪失した場合を想定し、通信設備用発電機の起動、通信設備用発電機から電源を供給するためのケーブルの敷設および接続の実動訓練を実施。

④冷却コイルへの直接注水訓練

- ・分離建屋の高レベル廃液濃縮缶の冷却コイルおよび安全冷却水1系、2系に冷却水を供給するための消防ホースを敷設する実働訓練を実施。

8. 訓練の評価

各個別訓練について定められた手順どおりに訓練が実施され、対応者の習熟を図れた。訓練ごとの評価結果は添付資料のとおり。

9. 今後の原子力災害対策に向けた改善点

訓練ごとの今後の原子力災害対策に向けた改善点は添付資料のとおり。

〈添付資料〉

個別訓練の概要

以 上

個別訓練の概要

○全交流電源喪失対応訓練（訓練実施日：2017年2月18日～2018年2月20日（訓練を繰り返し実施（当該期間内で合計47回、参加人数は延べ722名。）））

訓練項目	実施体制 (①実施責任者、②実施担当者)	実施結果	今後の原子力災害 対策に向けた改善点
電源車対応訓練 交流電源機能が喪失したことを想定し、電源車の出動、起動および電源車から電源を供給するためのケーブル敷設の訓練（実動）を実施。	①統括当直長または当直長他 ②当直員 計291名（延べ） （訓練実施数：15回）	手順書に従って、要員の現場配置、電源車の出動、起動、ケーブル敷設、接続作業等が迅速に実施できることを確認した。	必要に応じて手順書の見直し、繰り返し訓練を行い、習熟度を高めていく。
水素掃気用コンプレッサ対応訓練 交流電源機能が喪失したことを想定し、エンジン付き空気コンプレッサの起動およびホース敷設の訓練（実動）を実施。	①統括当直長または当直長他 ②当直員 計206名（延べ） （訓練実施数：13回）	手順書に従って、要員の現場配置、コンプレッサのホースの敷設、起動/停止、接続作業等が迅速に実施できることを確認した。	必要に応じて手順書の見直し、繰り返し訓練を行い、習熟度を高めていく。
通信設備用発電機対応訓練 交流電源機能が喪失したことを想定し、通信設備用発電機の起動および電源を供給するためのケーブル敷設の訓練（実動）を実施。	①統括当直長または当直長他 ②当直員 計172名（延べ） （訓練実施数：14回）	手順書に従って、要員の現場配置、発電機の起動/停止、ケーブル敷設、接続作業等が迅速に実施できることを確認した。	必要に応じて手順書の見直し、繰り返し訓練を行い、習熟度を高めていく。
冷却コイルへの直接注水訓練 高レベル廃液ガラス固化建屋の安全冷却水系（崩壊熱除去機能）が喪失したことを想定し、安全冷却水系に冷却水を供給するための消防ホースを敷設する訓練（実動）を実施。	①ガラス固化課長 ②ガラス固化課員 計32名（延べ） （訓練実施数：3回）	手順書に従って、現場配置、消防ホース敷設、接続作業等が迅速に対応できることを確認した。	必要に応じて手順書の見直し、繰り返し訓練を行い、習熟度を高めていく。
冷却コイルへの直接注水訓練 ウラン・プルトニウム混合脱硝建屋の安全冷却水系（崩壊熱除去機能）が喪失したことを想定し、安全冷却水系に冷却水を供給するための消防ホースを敷設する訓練（実動）を実施。	①脱硝課長 ②脱硝課員 計16名 （訓練実施数：1回）	手順書に従って、現場配置、消防ホース敷設、接続作業等が迅速に対応できることを確認した。また、過酷時環境（防護装備装着、一部暗闇状態）で訓練を実施し、対応能力の向上を図ることができた。	必要に応じて手順書の見直し、繰り返し訓練を行い、習熟度を高めていく。
冷却コイルへの直接注水訓練 精製建屋の安全冷却水系（崩壊熱除去機能）が喪失したことを想定し、安全冷却水系に冷却水を供給するための消防ホースを敷設するための訓練（実動）を実施。	①精製課長 ②精製課員 計5名 （訓練実施数：1回）	手順書に従って、現場配置、消防ホース敷設、接続作業等が迅速に対応できることを確認した。	必要に応じて手順書の見直し、繰り返し訓練を行い、習熟度を高めていく。